

群馬県吾妻郡六合村入山世立方言における 身体感覚を表すオノマトペ

篠木れい子

はじめに

1. 調査対象地

対象地の六合村は群馬県の西北部に位置し、東は中之条町、西は草津町、南は吾妻町と長野原町に接し、北は長野県下高井郡山の町に接している自然の郷である。六合村のなかでも、調査地の入山世立は北部の険しい山の斜面にある集落である。

その生業は農業であるが、専業は少なく、若者の多くは近隣の町へ通勤している。かつては曲物や木炭生産が盛んであったが、現在では際立った産業はない。

交通は、南の長野原町と六合村花敷を結ぶJRバスが一日に4往復ほど走っている。その花敷から徒歩で約20分ほど山道を登ると調査地に到着する。最近は道路が整備され、交通手段としてはもっぱら自家用車が用いられている。

六合村の人口は1991年12月現在で2187人、世帯数は636世帯。なお、入山世立の人口は約100人、世帯数は約40ほどである。

2. 調査年月日 1992年 1月30日

3. 話者 山本うた子氏 女 昭和 6年11月生 (60歳)

4. 調査者 篠木れい子 調査場所 話者宅

5. 調査方法 質問法による。

I 全身の感覚

1-1 快不快

サッパリ さっぱり

1-2 寒さ

ガタガタ がたがた

ブルブル ぶるぶる

ゾクゾク ぞくぞく

スースー すうすう

以上のオノマトペの用法は共通語のそれと同じであるが、これらは余り用いられることがなく、次のような表現が用いられるのが一般的である。

◇サブケダチガ シテキタ。寒気立ちがしてきた。

(ガタガタ、ブルブルに相当する寒さの場合の表現。)

◇カゼ ヒータ フーダ。セナカニ ミズ カケラレルヨーダ。風邪(を)ひいた風

だ。背中に水(を)かけられるようだ。

(ゾクゾク、スースーに相当する寒さの場合の表現。)

1-3 熱さ

ポカポカ ぽかぽか

なお、共通語の「かっか」に相当する語形は得られなかった。

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ ひりひり

ベタベタ べたべた

ネタネタ ねたねた

○アセデ セナカガ ネタネタ スル。汗で背中がネタネタする。

ムズムズ むずむず

モゾモゾ もぞもぞ

カサカサ かさかさ

ガサガサ がさがさ

スベスベ すべすべ

ツルツル つるつる

肌の滑らかさの形容は、スベスベやツルツルが用いられるが、次のような表現でなされるのが一般的である。

◇オンセンニ ヘーッ特拉 ハダガ ノメッコクナツタ。温泉に入ったら肌が滑らかになった。

◇オンセンニ ヘーッ特拉 キメガ ヨクナツタ。温泉に入ったらきめが良くなった。

ズキズキ ずきずき

ヒリヒリ ひりひり

火傷による痛みの形容はヒリヒリが用いられるが、次のように表現されるのが一般的である。

◇ヒボトーリガ スル。

ズキンズキン ずきんずきん

化膿した際の痛さは、動詞ウズク(疼く)で表現されるのが一般的である。

また、できものが膿んでつぶれたり、しもやけがひどくなってつぶれたり、やけどのみずぶくれがつぶれた時の表現には、次のものがある。

◇シモヤケンナッテ ターシルガ ナガレタ。しもやけになってターシルが流れた。

Ⅲ 頭部の感覚

3-1 頭

ガンガン がんがん

クラクラ くらくら

ズキズキ ずきずき

ズキンズキン ずきんずきん

3-2 顔面

顔面に関してはオノマトペは得られなかった。それは次のように表現されている。

◇ショーシクテ カオガ ホテル。恥ずかしくて顔が火照る。

3-3 目

チラチラ ちらちら

○テレビ ミスギテ メガ チラチラ スル。テレビ(を)見過ぎて目がチラチラする。

ショボショボ しょぼしょぼ 眠い時や、細かな文字を見過ぎた時に用いられる。

○ネブクッテ メガ ショボショボ スル。眠くて目がショボショボする。

なお、煙りで目がしょぼしょぼする場合には、次のように表現される。

◇ケムクテ メガ ユズクナル。煙くて目がユズクなる。

ゴロゴロ ごろごろ

目にゴミが入った場合にも、ゴロゴロというよりは、上に示した形容詞ユズイを用いて表現する方が多い。

◇メニ ゴミガ ヘーッテ ユズイ。目にゴミが入ってユズイ。

3-4 耳

キーン きーん

ジーン じーん

ジクジク じくじく

耳の中が腫れて汁がでている場合には、先にも示した<ターシルガ デル。>と表現される。

3-5 鼻

ムズムズ むずむず

グジュグジュ ぐじゅぐじゅ

ツーン つーん

3-6 口

(口全体)

ネトネト ねとねと

○ナットー クッテ クチガ ネトネト スル。納豆(を)食って口がネットネットする。

(齒)

ガチガチ がちがち

カチカチ かちかち

ズキズキ ずきずき

チクチク ちくちく

虫歯などで歯が痛む場合には、ズキズキやチクチクは余り用いられず、次のような表現がなされるのが一般的である。

◇ハガ ヤメル。歯が病める。

3-7 喉

カラカラ からから

喉が渴いている場合の形容は、カラカラを用いるよりも、次のように表現されるのが一般的である。

◇ノドガ ヒタ。喉が干た。

ゼーゼー ぜいぜい

ヒューヒュー ひゅうひゅう

オノマトペではないが、喉の状態を形容する形容詞にはイゴイ、イガラッポイ、エカレーがあり、次のように用いられる。

◇タケノコオ タベテ ノドガ イゴイ。筍を食べて喉がイゴイ。

◇タケノコオ タベテ ノドガ イガラッポイ。筍を食べて喉がいがらっばい。

◇ウチンナカエ ケムリガ マイテ ノドガ エカレー。家の中に煙が巻いて喉がエカレー。

IV 胴体の感覚

4-1 肩

コリコリ こりこり

4-2 胸

ドキドキ どきどき

ムカムカ むかむか

共通語の「どきんどきん」や「とくんとくん」に相当する語形は得られなかった。いずれもドキドキで表現されている。

4-3 腹

(空腹)

グーグー ぐうぐう

少し腹が減っている場合には、次のように表現する。

◇コバラガ ヘル。小腹が減る。

(満腹)

タプタプ たぶたぶ

パンパン ばんばん

パンパンよりも、次のように表現するのが一般的である。

◇ハラガ クチー。腹がくちい。

ダブダブ だぶだぶ

(腹下し)

ゴロゴロ ころころ

ピーピー びーびー

4-4 胃

キリキリ きりきり

胃の痛みを形容するオノマトペはキリキリしか得られなかった。次のように表現するのが一般的である。

◇イガ ヤンデ ショーガネー。胃が病んで仕様がなない。

4-5 尻

ムズムズ むずむず

ムズムズも用いられるが、ムグッテという方が一般的である。

◇シリガ ムグッテ。尻がくすぐったい。

V 手足の感覚

(手)

ブルブル ぶるぶる

(足)

ガクガク がくがく

ブルブルもガクガクも用いられるが、いずれもカッター(かったるい)と表現することが多い。

(その他)

ヌルヌル ぬるぬる

VI 関節(骨)の感覚

ポッキリ ぼっきり

○ホネガ ポッキリ オレタダツチューヨ。骨がポッキリ折れたというよ。
なお、寝違えて首がごきごきする場合はネマゲタ（寝曲げた）と言う。

VII その他

オノマトペではないが、身体に関する表現には次のようなものがある。

- ◇メガ シャバツク。（目やにが出て、目の縁が赤くなっている時に用いる表現。）
- ◇テヤ アシガ モトーラネー。（手や足が思うように動かない時に用いられる表現。）

まとめ

吾妻郡六合村方言には、身体感覚を表すオノマトペはきわめて少ない。それは身体感覚を表す形容詞や動詞が共通語に比べて豊かであるためであろうと考えられる。

（しのぎれいこ 群馬県立女子大学文学部）